

70 増養殖対策

【1, 383 (865) 百万円】

対策のポイント

- ・ シラスウナギの大量生産システムの実証化、ウナギ資源の増殖の取組の支援等、ウナギ資源の確保に向けた対策を推進します。
- ・ 陸上養殖を含む新たな養殖技術・手法の開発等、養殖業の振興に向けた技術・手法の開発を実施します。
- ・ 太平洋側サケの来遊数の減少要因を究明するための調査、資源の減少が著しい二枚貝の増殖対策等、増殖に関する事業を展開します。
- ・ カワウ・外来魚の広域的な被害対策等、健全な内水面生態系の復元に向けた取組を推進します。

<背景/課題>

- ・ 我が国の漁業生産量がピーク時から半減している中で、国民に水産物を安定供給していくためには、水産物の増殖及び養殖を一層推進する必要があります。

政策目標

主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量

(1,572千トン (平成24年度) →1,739千トン (平成34年度))

<主な内容>

1. ウナギ対策関連事業 [拡充]

423 (183) 百万円

ウナギ種苗の大量生産システムの実証化やウナギ資源の生息状況調査を実施するとともに、ウナギの遺伝情報を活用した系群判別、ウナギを含む内水面資源の生息環境の改善手法、放流用種苗の育成手法の開発を実施します。また、ウナギ資源の増殖の取組を支援します。

ウナギ種苗の大量生産システムの実証事業 [新規]

250 (一) 百万円

鰻供給安定化事業

146 (155) 百万円

健全な内水面生態系復元等推進事業のうちウナギ対策関連事業

27 (29) 百万円

委託費、補助率：定額、1/2以内

委託先、事業実施主体：民間団体等

2. 増殖に関する支援事業 [拡充] 438 (312) 百万円

資源の減少が著しい二枚貝の種苗生産技術を開発するとともに、増殖の取組を支援します。また、太平洋側サケの来遊数の減少要因を究明するための調査を実施するとともに、高品質なさけ・ます資源の造成のための放流適地の調査、広域に移動する魚種の種苗放流による資源造成等を支援します。

※ さけ・ます対策については別途、東日本大震災復興特別会計（復興庁計上）において、被災地における採卵用サケ親魚の確保を支援します。

二枚貝資源緊急増殖対策事業 [新規]	100 (—) 百万円
太平洋サケ資源回復調査事業 [拡充]	80 (50) 百万円
さけ・ます資源高品質化推進事業	171 (171) 百万円
種苗放流による資源造成支援事業	87 (91) 百万円
	委託費、補助率：定額、1/2以内
	委託先、事業実施主体：民間団体等

3. 養殖に関する技術開発 [拡充] 316 (201) 百万円

次世代型陸上養殖技術、収入の増加や抜本的なコストの抑制を実現する新たな養殖手法、ノリの色落ち防止のための水質管理手法、クロマグロ増養殖の実現に必要な技術の開発を実施するとともに、国内産人工種苗を用いた養殖手法の開発を支援します。

次世代型陸上養殖の技術開発事業 [新規]	130 (—) 百万円
持続的養殖生産・供給推進事業 [拡充]	61 (17) 百万円
海面養殖振興対策事業	125 (184) 百万円
	委託費、補助率：定額、1/2以内
	委託先、事業実施主体：民間団体等

4. 健全な内水面生態系復元等推進事業 [拡充] 207 (169) 百万円

外来魚の駆除手法の開発、地域間の広域的な連携による推進体制の下でのカワウ・外来魚の生息状況調査、被害防止対策等の取組を支援します。

委託費、補助率：定額、1/2以内
委託先、事業実施主体：民間団体等
※ウナギ対策関連事業を除く。

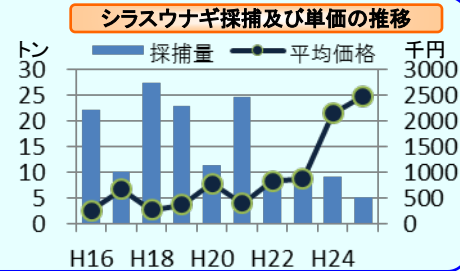
[お問い合わせ先：水産庁栽培養殖課 (03-3501-3848)]

ウナギ対策関連事業の概要

【平成26年度概算決定額:423(183)百万円】

ポイント

- シラスウナギは近年不漁が続いている。
- このため、シラスウナギの大量生産システムの実証化やウナギの生態や生息環境の調査を実施するとともに、効果的な放流による資源増殖、遺伝情報を活用した系群判別などの技術開発等を行うことにより、ウナギ資源の持続的利用とウナギの安定供給を図る。



1. シラスウナギの大量生産システムの実証化 250 (一)百万円

- ウナギ種苗の大量生産技術開発の成果を順次活用し、効率化・省力化を図ることにより、商業ベースでのウナギ種苗の大量生産の実用化を加速させるシステムの実証試験を実施

ウナギ種苗の大量生産システムの実証



2. ウナギの生態や生息環境の調査 53 (54)百万円

- 河川等におけるウナギの生息状況の調査やシラスウナギの周年を通じた来遊状況の調査によるウナギの基礎的情報の収集
- ウナギ等の棲み場所として必要な環境を維持した河川環境の造成を行うための基礎データの収集、天然水域における行動を把握するための追跡調査

ウナギの生息状況調査を実施



3. 効果的な放流による資源増殖 44 (45)百万円

- ウナギ資源の増殖のための放流や海外の養鰻業者との資源管理に関する協議に対する支援
- ウナギ等について、放流後に再生産に寄与する、より天然魚に近い放流用種苗の生産技術を開発

効果的な放流を実施



4. 遺伝情報を活用した系群判別などの技術開発 76 (80)百万円

- 遺伝情報を活用し、系群判別や養殖に適したウナギの選別、生きているシラスウナギから異種ウナギを判別する技術を開発

ウナギの遺伝情報を様々な分野に活用



ウナギ資源の持続的利用・安定供給の確立

増養殖対策の概要(ウナギ対策関連事業以外)

【平成26年度概算決定額:960(682)百万円】

ポイント

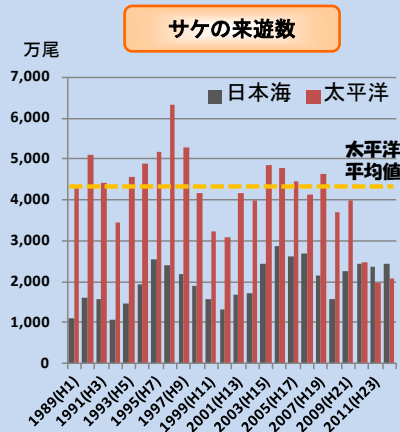
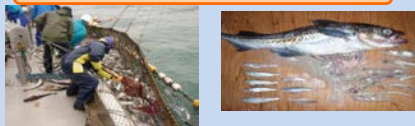
- 太平洋側サケの来遊数の減少要因を究明するための調査、資源の減少が著しい二枚貝の増殖対策等、増殖に関する事業を展開。
- 陸上養殖を含む新たな養殖技術・手法の開発等、養殖業の振興に向けた技術・手法の開発を実施。
- カワウ・外来魚の広域的な被害対策等、健全な内水面生態系の復元に向けた取組を推進。

1. 増殖に関する支援事業 438(312)百万円

(1) さけ・ます対策

- 来遊数が減少している太平洋側のサケについて、降海後の稚魚の動態調査等により、減少要因を明らかにした上で、ふ化放流手法の改良を実施
- 高品質なさけ・ます資源の造成のための放流適地調査を支援

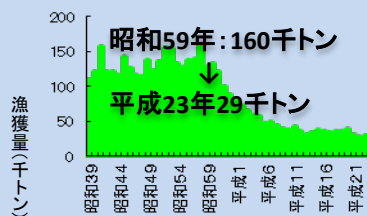
太平洋のサケ稚魚を集中的に調査



(2) 栽培漁業対策

- 二枚貝資源の増殖手法の実証化に向けた取組を支援
- 広域に移動する魚種の種苗放流による資源造成を支援

アサリの漁獲量



2. 養殖に関する技術開発 316(201)百万円

- 閉鎖循環式陸上養殖の最大の課題であるコストの低減等を目指し、技術の高度化・システムの統合環境制御等の導入・実証試験等を実施
- 収入の増加や抜本的なコストの抑制を実現する新たな養殖手法の開発を実施するとともに、国内産人工種苗の開発を支援
- ノリ色落ち防止のための水質管理手法、資源・環境に優しいクロマグロ増養殖の実現に必要な技術開発の実施

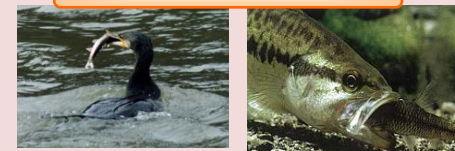
閉鎖循環式陸上養殖の実証試験



3. 健全な内水面生態系復元等推進事業 207(169)百万円

- 外来魚の駆除手法の開発、地域間の広域的な連携による推進体制の下でのカワウ・外来魚の生息状況調査、被害防止対策等の取組を支援

カワウ・外来魚による食害



国民に対する安定供給の確保・栽培漁業対象魚種、養殖魚種の生産量の回復